

地域のチカラ

●茨城県の交通安全活動



安全なまちづくりの観点から 進められる交通安全啓発の取組み

茨城県は、県、事業者及び県民が一体となって安全なまちづくりに取り組んでいる。その中心となっているのが、茨城県生活環境部生活文化課安全なまちづくり推進室だ。同室は防犯対策や犯罪被害者支援、そして交通安全を担当している。

8月6日、安全なまちづくり推進室は「平成21年度幼児交通安全教育指導者講習会」を県民文化センター（茨城県水戸市）で開催した。「この講習会は県内の幼稚園教諭や保育士、交通安全指導員等に、幼児の交通事故を防止するための効果的な交通安全教育を学んでもらうことを目的としてい



8月6日に開催された「平成21年度幼児交通安全教育指導者講習会」の様子。鈴鹿市交通安全指導員が会場の参加者を幼児に見立て「あやとりい」を実演

ます。今回は、ホンダの幼児向け交通安全教育プログラム『あやとりい、ひよこ編（以下、あやとりい）』を紹介することにしました」と同室主査の国府田さんは話す。

幼稚園教諭や保育士に「あやとりい」を紹介

講習会では、本田技研工業（株）鈴鹿普及プロダクトの喜井美雄リーダーが、「幼児は知識と行動が一致しません。交通ルールを知っていても、その通りに行動できないことがあります。だから、繰り返し教えるこ



とが必要なのです。子どもを座りっぱなしにさせないで、必ず教えたことを体験させるようにしてください」と、幼児の行動特性や効果的な指導方法について説明した。

次に、鈴鹿市交通安全指導員による「あやとりい」の実演が行われた。その後、参加者の代表が指導者役となり、「あやとりい」を実践。「どびだしているこ、だれかな」のワークシートを使いながら、幼児には道路を渡る時、「止まる」「渡る合図（手をあげる）」「左右を確かめる」「渡る」という手順で教えていく。最後に、幼児教育の現場で活用できるように「あやとりい」が参加者全員に配付された。

国府田さんは、「あやとりい」の長所として、指導者が一方的に話すだけでなく、子どもが自分たちで考え、判断するという、子ども主体のプログラムになっている点を挙げる。「今回は『あやとりい』の実演をやっていたので、参加者にもわかりやすかったと思います。現場で活用してみたいという参加者もいました」。

「地域安全マップ」作成を小学校で推進

子どもを事故や犯罪から守るための活動に力を入れる茨城県では毎年4月、新小学1年生の保護者に子どもの交通安全啓発資料を配付している。小学生、特に1年生の交通事故の特徴について解説し、保護者に事故防止対策を伝えている。

小学1年生の交通事故は歩行中が多いため、事故を防ぐために、「どんなことを（基本的な交通ルール等）」「どうやって（指導のステップ）教えるかを伝えるのが目的だ。そして、クルマに同乗中の事故も多いこともあり、全席でのシートベルト着用が必要」と訴えている。

また、茨城県では各家庭や小学校での「地域安全マップ」の作成を推進している。

茨城県内の小学校で普及が進んでいる「地域安全マップ」(写真は昨年度の表彰作品)



「地域安全マップ」の作成方法や、マップづくりに必要なマークなどの素材は茨城県のホームページで提供されている。
<http://www.anzen.pref.ibaraki.jp/kids/map.htm>

「地域安全マップ」とは、自分で描いた地図や市販の地図などを使って、いつも遊びに行く場所や通学路の危険な場所、注意すべき場所を確認するためのものだ。

「危険な場所を見つける目を養い、事故や犯罪から自分を守る力を子どもたちに身につけてもらうのがねらいです。小学校低学年であれば親子で、高学年であればクラスや友人同士でつくることが勧められています。

『ここに気をつけなければいいか』『なぜ注意しなければならぬのか』、家族やクラスで話し合いながら、つくってほしいと思っています。』と国府田さん。「地域安全マップ」のつくり方や、マップづくりに必要なマークなどの素材は県のホームページを通じて提供しています。平成18年からは、県内の小学校から作成した「地域安全マップ」を募集し、優秀作品に対し「知事賞」など4つの賞で表彰しています。

高齢ドライバーの事故防止への取組み

高齢ドライバーによる交通事故防止は茨城県でも大きな課題となっている。その対策の1つとして昨年度から開始したのが、「シルバー無事故・無違反チャレンジ1000」だ。これは、県内在住の高齢者（65歳以上）が3人1組でチームとなり、1000日間の無事故・無違反を目指すという交通安全運動である。

「チームの中でお互いに気をつけあいながら進めていくため、自分が参加している実感が持てる」ということで、たいへん好評です。達成チームには抽選で旅行券などがもらえる特典もあります」と国府田さんはいふ。昨年は816チームの応募があり、712チームが無事故・無違反を達成。今年には県職員が高齢者の集まるさまざまな場所で行い、1398チームが9月末まで無事故・無違反にチャレンジした。

シミュレーターを活用した 中高生への自転車教育

中学生・高校生への自転車教育について、茨城県ではホンダ自転車シミュレーターを学校へ持ち込んでの交通安全指導を計画している。

「隣の栃木県にホンダの普及ブロックができたことで、ホンダが蓄積している交通安全教育に関するノウハウを得やすくなりました。自転車シミュレーターもその一つです。県の交通安全対策に、うまく取り入れていきたい」と国府田さんはいふ。今後、茨城県では交通安全教育の分野でホンダの栃木普及ブロックと連携していく考えだ。

毎年4月、新小学1年生の保護者に配付している交通安全啓発資料(抜粋)。歩行中の事故を防ぐため、子どもに伝えてほしいポイントがまとめられている

